

2024年度「カンボジア 短期派遣プログラム報告」

農学部・農学科・2年・40223035・佐藤笑鈴

1. 当初の目的

私は農業に対する視野を広げたいと思い、カンボジアの夏期短期派遣プログラムに参加しました。私が農業に興味を持ったのは小学生の時です。「生活」の授業で野菜を育てた経験から、生産者がいるためにおいしいご飯を食べることができていることに気づき、農家になろうと思いました。また、食べることは生きることと直結すると感じるため、農業は人類にとって必要不可欠な職業だと思っています。しかし、日本では農業従事者の減少、気候変動などの課題が多く存在しています。私は誇り高き農業を守っていくために、農業従事者をサポートして改善の手伝いをしたいと思うようになりました。サポートできるまでの力をつけるために大学に進学しましたが、以前までは日本の農業しか注目していませんでした。しかし、講義中に先生方が話す海外での出来事を聞いたり、先輩方の留学の報告書を読んだりして農業という職業は広いことに気が付きました。日本国内にとどまっていたのはアイデアが限られてしまうと感じ、農業体験が含まれているカンボジアコースを選択して、農業の考え方を見直したいと思いました。プログラムに含まれている緑化活動や農村調査などから現在の農業スタイルや取り組みを学び、自分なりに解決策を模索することを目標にしました。また、教員免許を取得するために他国の学校制度を学ぶ機会がありました。カンボジアコースのプログラムの中には小学校や大学で共に活動したり交流を深めたりすることができるため、他国の学校制度を実際に行って学ぶことができるチャンスだと感じました。現時点では先生になることは考えていませんが、子どもたちや学生を通して他国の教育について考えることも目的の一つでした。その他にもカンボジアの文化や衣食住などに触れて、国の良さをたくさん見つけたいと思っていました。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

カンボジアコースのプログラムの目的は「カンボジア国におけるアグロフォレストリーによる持続可能な開発の促進」について考えることでした。カンボジアでは農地面積を増やすために森林を伐採している現状があるため、アグロフォレストリーを普及させ、自然資源の持続的利用につなげる活動が行われています。その活動の中の一部を体験させてもらいました。私は農業に焦点を当てて、主に3つの活動を行いました。

1つ目の活動は地域住民と湖畔植林、小学校で森林環境教育をしました。農地を増やせば増やすほど収穫できる作物は多くなります。森林を伐採した方が地域住民にとって利益が大きくなることに気づくと、樹の重要性が低くなってしまいます。しかし、その考え方は短期間で見た時の話で、長い目で見ると地球温暖化の進行や生態系の破壊によって定住することができなくなってしまいます。この連鎖をとめるために樹の重要性を教えなければなりません。そこで、子どもたちを対象にネイチャーゲームを通して森林環境の重要性を伝え、子から親へ、親から住民へ広げていく目的で行

われています。そのために私たちは住民と共に植林をしたり、小学校の児童と共にネイチャーゲームをしたりしました。私はこの活動から自然資源を大切にすることを学ばせてもらいました。子どもの頃の経験は大きくなっても覚えているものです。理屈を理解していなくても自然は大事だとわかっているだけで将来の自然資源に対する接し方は変わってくるそうです。子どもたちは楽しそうに植林やネイチャーゲームを行っていました。共に活動をするということが教育には重要で自然と大切さが伝わるものなのだなど感じました。しかし、子どもたちが大きくなって農業という仕事をしなくてはいけなくなった時、自然資源の大切さと今日の食料を天秤にかけても釣り合うようにアグロフォレストリーの普及を安定して行う必要があると感じました。結果が出るまでに長期間を必要とするため、何世代にも受け継がなければ意味がなくなってしまう。そのため、定期的に重要性を教え、共同作業をすることが大切だと感じました。普及をする側は地域住民との良好な関係が築くために共に作業をすることが必要だと思いました。

2つ目の活動は植林地における炭素貯留量の測定を行いました。アグロフォレストリーを導入しているキャッサバ、コメの植林地と、していない植林地の炭素貯留量を比較して、作物の収量を安定させながら地球温暖化を抑制する取り組みを両立させる案をメンバーで考えました。炭素貯留量の結果としてはキャッサバ、無処理、コメの順で減少していることからキャッサバはアグロフォレストリーの作物に向いています。3年間の生育期間を必要とするため収量の確保が難しいことが分かりました(表1)。

表 1. 炭素貯留量の測定結果

間作作物	キャッサバ	コメ	なし
炭素貯留量(kg)	14.207	6.846	9.454

また、樹が大きく成長すると作物に日光が当たらなくなってしまうため生育が悪くなります。これらの問題点を考慮したうえで、メンバー内で出した案は、日陰でも栽培できるショウガなどの作物に変えることでした。私はコメの炭素貯留量を測定したのですが、樹がこれ以上大きくなってしまったら生産することができないと思いました。アグロフォレストリーは向いている作物と樹を選択しなければ両立が難しく、生産できる作物が限られてしまうことも住民にとってはデメリットだと感じました。また、作物を変えることは伝統料理を変えてしまうかもしれないため、良く思われていないのではないかと感じました。アグロフォレストリーによって大きな成果を得るためには現地の住民、地域社会などと協力して推進することが大切だと聞きました。農民と話し合いながら作物を選択したり提案したりすることが普及をする上で必要だと感じました。

3つ目は農村調査です。村人へのインタビューを通して資源マップを作成し、アグ

ロフォレストリー推進における課題を見つけました。完成した資源マップから住宅付近には食べられる実や薬となる樹が多いこと、木材を利用する樹種は寺院や家に離れたところに多いことが分かりました。一方、寺院の周りには樹が少ないため、利用価値のある樹種を植林してアグロフォレストリーを推進することができるのではないかという結論になりました。このことからアグロフォレストリーは地域住民と協力し合うことで持続していけるような環境を作ることができるかと学びました。また、農業は生産することだけでなく、周辺の自然資源の恩恵を受けていることを理解することも大切な活動だと感じました。

これらのプログラムの他にも、観光や人との出会いから学ぶことは多くありました。キリングフィールドやアンコールワットの遺跡からは、現代を生きる私たちにエールを送ってくれているような意味が込められていたように感じました。特にアンコールワットでは、生命力や死後の世界を象徴する彫刻や建築を見て、自分の人生について考えさせられました。カンボジアの文化を通して感謝を忘れないことが大切だと気づかされました。

3. 目標達成度の自己評価

農業に対しての視野がどのように広がるのかは、正直想像できていませんでした。また、目標の達成度といわれると問題が深まるばかりで、納得のいく解決策を考え出すことができなかつたため低いように感じます。しかし、達成感だけでいうととても高く、充実した日々を過ごすことができました。最終的にカンボジアで得られた学びは「農業は人類のために行うものではない」ということでした。私は住んでいる人たちが安定した収量を得るためにどうしたらよいかということだけを考えていました。しかし、アグロフォレストリーを学んで、住んでいる人たちが何十年、何百年後も持続して暮らしていくためにはどうしたらよいかを考えるようになりました。樹は作物のように短期間で結果は得られないし、炭素貯留などといわれても理解することが難しいかもしれません。それでもこの地球で生き続けていくためには自然と共存していくことが必要だと感じました。普及をする人は一方的なアプローチだけではなく、住民と関係を作っていくことで思いが伝わり、より大きな成果を上げることができると思いました。また、アグロフォレストリーについて学び、現地の方と行動をしながら農業を体験できたことで新たな視点を見つけることができました。そして、カンボジアで経験したことから農業をサポートしていく方法について改めて考えるきっかけになりました。そのため、目的を大いに達成することができたと感じています。

4. 今後の取り組み

実際に見て、調査し、共に活動したメンバーと話し合えたのは良い経験になりました。しかし、一つ心残りがあるとすれば私の英語力不足で現地の方と話し合うことができなかつたことです。英語の説明を理解したり、質問をしたりすることができたらより深い学びができていたと思います。日本語で通訳してくれる場面も多々ありましたが、カンボジア王立農業大学の学生とキャンパスツアーをした際は英語でしか話すツールがないため、相手とあまりコミュニケーションをとることができずでし

た。しかし、私が理解できるように身振り手振りで説明してくれたりクメール語を教えてくれたりと優しく接してくれました。このことをきっかけに私は英語で彼女と会話することを目標に努力しようと思いました。日本でも英語を話す機会を作ろうと思えば作ることができましたが、私はそれを避けてきました。しかし、外国に行けば避けることができなくなるため私にとって良い英語力向上の場になると感じました。そのため、定期的に外国に訪れようと思いました。また、農業を優先にして英語は二の次に学ぶというところが失敗だったと感じます。農業は住民とのコミュニケーションも大事だということに気づくことができたため、今後は英語力を高めることにも力を入れていきたいと思います。そして、留学中に感じた問題を解決できるように柔軟な発想力を鍛えようと感じました。そのためにこれからも色々なところに行って経験値を高めていきたいです。



小学校の子どもたちと集合写真



ネイチャーゲーム



炭素貯留量の測定